

あなたは永久に不滅です！

(ヨハネ三・一六)

お正月にテレビでミスターこと長嶋茂雄さんの特集を見た。今から四〇年前、現役引退試合後のセレモニーで、「我が巨人軍は永久に不滅です！」と絶唱したのは五〇代以上のプロ野球ファンにとって

は忘れられない名場面。ご多分に漏れず当時十一歳だった私もテレビの前で呆然と号泣しながら、生まれて初めて夢にはいつか終わりが来ることを知ったのであった。現役引退後、長嶋氏は二度に渡って巨人軍の監督を務め、挫折と栄光を味わいながら、国民に夢と希望を与え続けた。しかし十年前、突然の病魔が彼を襲う。重度の脳梗塞である。だが彼はあきらめなかった。番組では、今まで明かされることのなかった深刻な病状や、それを克服するための壮絶なりハビリの様子、更には決して否定的にならず、困難に打ち勝とうとする彼の「今」が記録されていた。私にとつては大学の先輩、人生初めてのヒーローである彼の生きざまに年

一・滅びることへの恐れ

この聖書箇所は、聖書の真理を集約している、文字通りの珠玉の言である。まず「ひとりとして滅びることなく」とあるが、これは裏を返せば人間は全員が滅びる存在であり、死の支配下にあるということを言っている。だが神の願いは「信じる者が、ひとりとして滅びない」ことだと言っているのである。

時にヨハネ三章は、ニコデモというユダヤ人の指導者に対し、「神の国に入る」には何をすべきかをイエスが答えている問答から始まるのであるが、これは彼にとつて大きな課題であった。努力によつて人生を築き、良い教師と呼ばれ、遂には誰もが尊敬する議員としての地位を築いたニコデモであったが、その彼にしてなお天国は「よくわからない」ものであった。それは長嶋の活躍と共に必死に働き、高度成長を成しとげた多くの日本人と同じだと言えよう。どこかに恐れをもっているのであり、そしてその最大のものは「死」への恐れである。

聖書は神は永久の初めから永久の終わりまでの存在であり、その国に入る、すなわち神のご性質である「永久」に与ることこそが人間本来の姿だと証言する。「滅び」||「死」は元来存在しなかったが、人間が神から離反してしまったこと

(罪)への刑罰として侵入した。だがこの年配の指導者にはこの罪からの解決は無かったのである。

二・身代わりとしての「ひとり子」

この切実な悩みに対しイエスは、新しく生まれることこそが唯一の答えであると明言した。新しく生まれる。それは生き方を方向転換し、人の子となられた神を信じることに他ならない。

私には三人の孫がいる。上の二人は可愛い盛りで彼らと遊んでいると、息子と娘がその年頃だった頃のことを思い出し愛おしさで胸が一杯になる。また「もし彼らが私より先に命を落とすようなことがあつたら…」と考えるだけで深い悲しみに支配され、自分が身代わりになつてもいいから彼らを生かして欲しいと願う。

同じように神は天地を造られる前から私たち一人一人を選び、かけがえのない存在として自らの息を吹き込み、命を与えて下さった。また神はご自身から離反した私たちが「ひとりとして滅びることがない」ための驚くべき方法を用意された。それは、ご自身のひとり子であるイエスを私たちの身代わりとして十字架という極刑で罰することだった。だから「ひとり子を与えたほどに世を愛した」とは

熱烈かつ切実な神の痛みであると同時に神の愛の究極の現れなのである。ひとり子イエスの死によつて人間は不滅な存在へと回帰することが可能になったのだ。

* * *

巨人軍の二〇一四年は打線が固定出来ず、相当な苦勞をしたものの、セ・リーグ三連覇を成しとげた。長嶋氏もまたファンニングが出来るまでに回復することを目標として、現役時代を彷彿とさせるようなハードなりハビリに取り組んでいる。全く驚くべき七十八歳である。私も一ファンとしてその日が来ることを信じた。とはいえ巨人軍が永久に不滅かという点、そんなことは有り得ないし、いくらハビリに励んでも長嶋氏が永久に生き続けることもない。皆わかつているのだ。しかしあえて「永久不滅」を信じるふりをする中で自らの「死」と「滅び」の問題をうやむやにしているのではないか。現実には直面することは確かに恐ろしい。だがひとり子を十字架に架けたほどの神の愛を今日信じて受け取るならば、あなたの「死」は「滅び」ではなくなる。「死」は完全に駆逐され、あなたは神の国に入れられ、不滅な者とされるのが約束される。今、ひとり子を信じよう。その決断があなたを不滅な者にするのだから。